

2021年度 自己評価

以下の項目ごとに4段階

A・・・よく出来た

B・・・まあまあ出来た

C・・・あまり出来なかった

D・・・まったく出来なかった

2021年度 テーマ 共に喜んで～すべての歩みの中

①子どもと心を通わせる保育 ②家庭と繋がり分かち合う ③共に学び合う保育者集団

評価項目		クラス	1学期の評価・反省		2学期の評価・反省		3学期の評価・反省	
①子どもと心を通わせる保育								
1	一人ひとりの子どもと心が通うような関りを持ち、信頼関係を築けるように努めた。	0,1歳児	A	強くアピールしている子に引っ張られ、気になっても心を通わせられない場面がある等、個人差があったが、チームでカバーし合い、信頼関係に繋げていった。 全体的に落ち着いてきたので、自分からアピールしない子にも、連携をとり、積極的に行動に移し関わっていききたい。	A	保育者間で連携しながら0、1歳の担当を流動的にしたことで個々との信頼関係を深める事ができた。引き続き見落としがちな子に対して配慮していきたい。	A	進級に向けて、保育者を年齢別に固定することで、子ども一人ひとり様子を丁寧にみて、流動的な子どもの心もちを理解しながら保育していくことができた。特に1歳児は幼児クラスとの交流も出来、友だちとの関わりも楽しむことが出来た。
		2,満3歳児		それぞれに、クラスの子どもの達一人ひとりを丁寧にみて、信頼関係を結べるように関わっていく事が出来た。 子ども達も新しい環境に慣れ、自分らしさを発揮しながら自由に遊べるようになってきた為、今後は子ども同士の関係も見ながら、クラスに捉われず、より深く様々な子どもとの関係を築けるようにしていきたい。		一人ひとりとの信頼関係をしっかりと結べたことで、子どもたちも安心して好きな遊びに没頭したり、友達同士で関りを深めたり出来ていたと感じる。		子ども達同士の関係の深まりも増し、集団で遊ぶ事が多くなったことで、子ども達同士で協力し合ったり、助け合ったりしながら信頼関係を深めていた。保育者間でも、情報交換を行いながら、一人ひとりの育ちを皆で見つめながら過ごすことが出来た。
		3～5歳児				担当クラスの子どものに捉われず、様々な子どもと信頼関係を深める事で、保育者との関係を通して子ども同士の縦の関係も深まってきた。		一人ひとりの子どもの育ちだけではなく、子ども達の集団としての育ちを感じられる3学期だった。それぞれの子どもの個性、良さを保育者達が理解し受け止めてきたことで、子ども同士も互いに認め合い、共に育ち合う関係を築いていく事が出来たと感じている。
2	個々の子どもの家庭状況、健康状況、発達状況を把握し、子ども理解に努めた。	0,1歳児	A	家庭状況や親の考えを理解し、その気持ちに寄り添うことが大切だと実感しながら、状況把握に努めることができた。 今後も、家庭との繋がりや、保育者間の情報共有を大切に、子ども理解に務めていききたい。	A	代休、早番、パートの保育者も把握できるように、子どものケガ、病気、急な休み、提出物等重要な事を連絡ノートに記し、情報共有に努めた。	A	連絡ノートを活用しながら、重要な情報を共有するように努めた。伝えるべき情報かどうかの判断が難しい場合もあったが、引き続きノートを活用する中で、より良い方法を模索していきたい。
		2,満3歳児		休園中も各家庭に連絡する等、把握に努めたが、家庭によっては、生活の状況が見えにくい家庭もあった。子どもの状況などは保育者間の情報共有を特に重要視して行えた。		1学期の反省をいかし、バス利用等でコミュニケーションがとりにくい保護者とも電話でこまめに連絡を取るよう心掛け、家庭状況の把握に努めた。		バス利用の家庭や、連日病欠している場合には、こちらから積極的に電話をし、こまめな連絡を取ることで、家庭と繋がり、個々の状況を把握する事が出来たと感じている。
		3～5歳児		特に連携の取りにくい家庭への、積極的な関りを意識して、保護者との意思疎通を図っていききたい。		子ども同士の関りが増えた分、喧嘩やトラブルも増えてきた為、今後もケガの状況や子どもたちの関係性、心の状態など理解できるように丁寧に保育にあたっていきたい。		また、保育者間でも意識的に伝えあい、子どもたちの状況把握や子ども理解の情報共有することが出来た。

評価項目		クラス	1学期の評価・反省		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
3	子どもの主体的な活動を促し、一人ひとりが意欲を持って遊べるように、援助や環境に配慮した。	0,1歳児	B	年齢にこだわらず、その子の発達段階や体調に合わせて柔軟に対応することが出来た。 今後は、子ども達の遊びの幅を広げていく為の工夫をもっと行っていきたい。	A	その時々の子どもの遊びをヒントにわらべ歌あそび、かくれんぼ、リース作り等ひとつの遊び広げていくことができた。	A	2学期の経験から、それぞれの子どもたちが、目的を持って遊びに取り組んだり、自主的に遊び始めて遊びが広がっていくような姿もあり、成長を感じることが出来た。
		2,満3歳児		ひとり遊びから、子ども同士の関りも増えてきた。その中で、保育者が、どうその遊びを支えていくのか、迷いや難しさを感じるがあった。 都度、保育者間で情報を共有しながら、子ども達にとって必要な遊びの援助の仕方を考えていきたい。時には保育者が子ども同士の遊びに介入し、新たな刺激や、遊びの広がり発展するように促していきたい。		子ども同士の関りが深まり、集団でごっこ遊びを楽しめるようになってきた。1学期の反省を踏まえ、迷いや難しさを感じた事を、ミーティング等で方向性や捉え方を確認し合うようにしたことで、皆同じ心持ちで子どもの成長を願うことが出来た。 コロナの影響もあり、大人数で歩いて散歩に出かける経験が例年に比べると少なかった為、子どもたちの危険に対する意識が低い事を感じた。園外での遊びの中でも、自分の身を守ることを意識できるように伝えていきたい。		子ども同士での遊びが深まり、互いに対話しながら楽しむようになった。また、園内の好きな場所で好きな遊びを楽しむ中で、クラスに捉われず様々な先生や子ども達と関わりを持つことが出来た。他のクラスとの交流活動は良い刺激の場となった。 2学期の反省を生かし、3学期は近隣の公園へ他クラスの子どもたちと一緒に雪遊びに出かける機会を意識的につくった。年長児と手をつなぎリードしてもらう中で、良い交わりとなり、同時に車に気を付けたり、信号を見て判断することも学び、意識するようになった。
		3～5歳児		子ども達が自由に好きな遊びを楽しめるよう、様々な工夫をしたり、子どもの遊びの様子から、それぞれの保育者が子どもとの関わりの中で、遊びが充実していくように関わる事ができた。 引き続き、子ども達の様子に合わせて、更に遊びが発展し、広がったり深まったりしていくように必要な援助や環境設定を行っていきたい。		保育者が関わり、1つの遊びを継続的に行う中で、子どもたちの興味関心が深まり、様々な発見や学びを得る事が出来たと感じる。また、個々の遊びの充実と共に、集団遊びやクラス活動も充実して楽しむことが出来た。その中で、今までとは違った子どもの関係性も見られるようになってきた為、今後も子ども達の刺激となるような活動や遊びの環境を整えていきたい。		子どもたちは雪の降る日でも、風の強い日でも、自主的に外へ出て雪遊びを楽しんで過ごしていた。また、それぞれに友達の良さを認め合い、苦手な事は助け合いながら子ども同士の絆が深まっていく姿も沢山見られ、大きな成長を感じる3学期だった。その姿からも、子どもたちの興味に合わせた環境設定や、やりたい気持ちを実現できる環境を目指して、それぞれの保育者が協力し合いながら、保育環境を整えていく事が出来たと感じている。

評価項目		クラス	1学期の評価・反省		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
4	子どもたちが、どこでどのような遊びをしているのか、またどのような様子で遊んでいるのかを把握し、子どもと分かち合う事を意識して過ごした。	0,1歳児	B	子ども達の遊びの様子は、常に把握していく事は出来た。 今後活動範囲も広がり、体力もついてきた為、多少危険だと思えるようなことでも、傍で見守りつつ挑戦させていきたい。	A	コロナが落ち着いてきた頃から異年齢交流も少しずつ増やし、互いの刺激にもつながる事が出来た。	A	特に1歳児は、進級に向けてすずめ組のお部屋で過ごしたり、お兄さんお姉さんと一緒に遊べるように配慮した。その中で兄姉のクラスで過ごす時間が多い子については、そのクラスの担任が見守っていたが、うまく連携をとって情報交換ができるように今後は努力していきたい。
		2,満3歳児		すずめ組の子ども達の様子は把握し、共感しながら過ごすことが出来たが、他クラスの子ども達の遊びや展開等がわからず、要望に応えられない事もあり、幼児グループの保育者との連携が必要だと感じた。		上のクラスに兄弟がいる子は、そのクラスで過ごすことが多く、任せきりになってしまいう事があった。様子を見に行き、必要に応じて声を掛けたり誘ったりしていきたい。		それぞれの保育者がクラスの子どものだけでなく様々な子どもと関わり、活動する中で、子どもの姿や成長などを保育者同士で伝えあい、情報共有するように心掛けた。
		3～5歳児		幼児は様々な遊びが充実している分、それぞれの遊びを中心になって見ている保育者が比較的固定されており、他の保育者がその遊びに関わる事が難しいと感じる事がある為、保育者同士でもっと情報交換をし、どの先生でも対応していける様に、また色々な視点で遊びを発展させ、子どもの育ちを見つめていけるように工夫したい。 子ども達の遊びの様子から、それぞれの保育者が工夫し、環境設定しながら遊びが充実していくように関わっていった。しかし、それぞれの遊びがどのように行われ、どのような姿があるのか、今後どうしていきたいのかなど、保育者間や子ども達同士での情報共有の面で、足りない部分があると感じた。		1学期の反省を生かし、ミーティングで情報交換をし、子どもの遊びの状態や、保育者の思いを共有することが出来た。中には、継続的に同じ保育者が関わることで発展する遊びもある為、そのような時には状況判断をしながら保育者同士連携して対応していく事が出来た。 保育者によっては、もっと色々な遊びを提供していきたいとの反省もあった為、それぞれの保育者が持ち味を生かして保育に当たれるように、更に保育者同士の連携を強めていきたい。		子ども同士の関わりが深まった分、遊びが継続し深まっていった。子ども同士でも、クラスで集合した際に、楽しかった遊びのことや、呼びかけ等お知らせし合える場を作り、皆で分かち合うことが出来た。
保護者からの意見・感想（連絡帳にて）								
・最後のお便りにあった言葉“人というのが楽しいと思う気持ち”“人を大切にしてい思いやることで感じる温かい気持ち”“人と信頼し合う安心感”。まさにそれを感じられるような子になっているように感じます。								
・コロナが流行し約2年、行事が通常通り出来ない事に残念と言う思いもありましたが、それ以上に残念と言う気持ちを忘れるほどに楽しく過ごしていたと思います。園長先生をはじめ、先生達の「この状況下で楽しめる事」の考え方に触れ、素敵な園だと思いました。								
・大人側が何かを与える形ではなく、子ども達の発想や自主性を大事にして下さっている先生方の気持ちが伝わってきて、嬉しく思います。								
・成長と共に息子から幼稚園での事を聞くことが増えたように感じます。歌だったり、スポーツだったり、遊び方だったり、色々なところから、先生達が言葉をかけて下さっているのだなあと日々感じていました。								

評価項目		クラス	1学期の評価		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
②家庭と繋がり分かち合う								
1	保護者と、子どもの様子や成長について積極的にコミュニケーションを取り、話しやすい雰囲気を作った。	0,1歳児	B	それぞれの立場から、保護者と積極的に関わろうと努めていて良かった。 今後も継続していきたい。	A	個々をよく観察し、連絡帳はもちろんのこと、お迎え時等でほんの少しの時間でもちょっとしたエピソードを伝えるよう努めた。	A	子どもの成長を伝える為に、友だちとのぶつかり合いの姿でもありのままを伝える事が大切だと思い、保護者の気持ちに寄り添いながら伝える努力をした。
		2,満3歳児		バス利用者や早朝・延長保育の保護者等、コミュニケーションを取りにくいお母さんとの意思疎通が難しく感じた。 玄関でのお迎え時も、外で保護者に待機してもらっていることもあり、顔を合わせても、必要な事以外、話すことが難しいと感じつつ工夫が出来なかった。 バス利用者に対しては、電話や連絡帳の他にも、時にはバス添乗を交代するなど、直接顔を合わせる機会を大切にしていきたい。また、お迎え時には意識してチームで声を掛け合って、コミュニケーション不足の保護者と関わる機会を意識的に持つようにしたい。		1学期の反省を生かし、顔を合わせる機会が少ない保護者とも、意識的に関わることで、子どもの成長を分かち合ったり、保護者の考えや思いを聞くことが出来た。 今後も、家庭と繋がって保育を行っていくことが出来るよう、保護者とのコミュニケーションを大切にしていきたい。		コロナウィルスによる緊急事態宣言等もあり、お休みしていた家庭には、定期的に連絡をし、コミュニケーションを取るようにした。また、バス利用の保護者や、病欠が続いた場合等にも、こちらからの連絡をこまめに行う事で、子どもの家庭での様子や保護者の思いを知ることが出来、こちらの思いや考えも伝えることが出来、良かった。
		3～5歳児						
2	心配や悩み等、保護者の思いに寄り添い、真摯に向き合うよう努めた。	0,1歳児	B	家庭の状況にどこまで踏み込むべきか考えすぎてしまう事があった。 保護者の思いにどこまで応えられるかをチーム間でよく話し合い声を掛けるタイミングを逃さないようにしたい。	B	保護者がリラックスして話が出来るとなると話のやり取りが出来るようになった。個人懇談等でも保護者が話しやすい雰囲気となるように、工夫していきたい。	B	引き続き、送迎時に出来るだけコミュニケーションを取れるように心がけた。 家庭での事やデリケートな問題に関しては、特定の保育者が話すようにした。
		2,満3歳児		保護者からの声に対して、それぞれが真摯に向き合おうと努めていた。しかし、思うことがあってもこちらに伝えてこない保護者もいるように感じる。		トイレトレーニングや友達との関わりについて等、こまめに保護者とやり取りする中で、意思疎通がとれたように感じる。引き続き、保護者との関わりを大切にしながら、心配や悩み等の話になった時には真摯に向き合っていきたい。		直接のコミュニケーションだけではなく、連絡帳でのやり取りも充実しており、保護者の心配や、悩み等を随時聞くことが出来、都度園での様子を伝えたり、保育者達の思いを伝える事を大切にしながら関わりを深めることが出来た。
		3～5歳児		なかなかコミュニケーションが取れなかった家庭とも、工夫しながら関わりを多く持つようにし、ちょっとした不安や悩みも気兼ねなく話してもらえようような関係を築いていきたい。		喧嘩やケガに対して不安を感じているとの保護者からの声があった。その時の状況や子どもの思い等、保護者に聞かれてから説明するのではなく、日ごろの子どもの様子や、園の考え方・子ども同士の関わり方の捉え方などを、折々に保護者に伝えコミュニケーションを取っていく事が必要と感じる。保育者同士連携を取りながら、皆同じ願いを持って対応に当たっていきたい。		2学期に課題としてあげていたが、喧嘩やケガに対しての捉え方、園での対応についてを発信したり、聞かれてからではなくこちらからお話しする機会を増やす等を意識していたが、不安を抱えている保護者に対して、もっとこちら側から積極的にコミュニケーションを図っていく必要があると感じている。今後も、特にバス利用者や早朝延長保育利用の保護者等、工夫をしながら、思いを伝えあえる関係を目指していきたい。

評価項目		クラス	1学期の評価		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
3	園の方針や考えを理解し、保護者との関わりの中でも伝えていくよう心掛けた。	0,1歳児	B	一度説明したことでも、真意が伝わっていないことがあった。気付いた時、必要だと思った時に何度でも伝えていくようにしたい。また、保育者によっても気づく視点が違うので、情報共有をしっかりとしていきたい。	A	全体懇談会がなかったので真意が伝わりづらい事を感じたが、なぜそうするのかを個々に丁寧に伝える事を心掛けた。	A	コロナウィルスの影響で、1年間、一度も全体での懇談会が出来なかった。お便り等で随時発信する事は出来たが、顔を合わせて、保護者同士と一緒に話を聞き語り合い、成長を喜び合えるような場を来年度は作りたい。
		2,満3歳児		特にトイトレやお昼寝について等のやり取りの中で、意思疎通をし、園の考えや取り組み方を理解してもらう事が出来たと感じる。 お友達同士のトラブルや、この年齢特有の発達の姿、それに伴った園での過ごし方等、今後も保護者に園の考えを伝え理解し合えるよう、様々な手段で発信していきたい。		子ども達同士で遊ぶ事が増え、その分喧嘩やケガ等も増えたが、保護者へ日々年齢特有の発達や、こちらがどのように受け止めているのかを伝えてきた事で、理解して共に育ちを見守っていくことが出来たと感じている。		上記同様、クラス懇談を行う事が出来ず、顔を見て皆さんに伝えたり、語り合ったりする場合は設けられなかったが、懇談に代わるように、担任の思いや、子どもたちの大きな成長について、クラスのお便りとして伝える事は出来た。保護者から、連絡帳などで感想を聞くことも出来、限られた状況の中でも、工夫しながら、伝えていく事の大切さを改めて感じた。
		3～5歳児		懇談会や保護者参加の行事などが中止になる事で、直接園での子ども達の姿や園の考えを伝えるような場が減ってしまった。その意味では、今回のクラスだよりは、より具体的に保育者の意図や思い、園の考えを理解してもらうのに良いと感じたし、発信する側にとってもやっていることの意味を再確認できる良い機会となった。 園としての考えや思いを発信することを、これまで以上に意識して伝えていきたい。また、クラスだよりのようなお便りを学期毎、もしくは活動の節目等に発行するのも良いと考えている。		2学期は、保育参加や懇談会を行うことが出来た。特に11月は、保育参加の後にすぐ懇談会を行った為、新鮮な気持ちで保護者と共に子ども達の成長を分かち合う事が出来た。皆が顔を合わせて、同じ話を聞いたり、園の方針や保育者の思い等を、直接話す機会はとても大切だと感じた。 今後も個々の対応ややり取りを大切にしながら、公の場で話す機会を大切にしていきたい。		
4	まど・ブログ等の情報発信等で伝えられるように努めた	0,1歳児	B	子ども自身が園での歌や遊びを帰宅後懸命に伝えようとするが保護者が理解できず質問されることがあった。 園だよりやブログだけでなく、その時の子ども達の間で流行っているわらべ歌や絵本を家庭でも楽しめるように、他の紹介の仕方工夫していきたい。(部屋に掲示する等)	B	情報発信に努めたが、写真を見て終わりのような印象を受けた。長い文章は伝わりづらいので、簡潔な文章で分かりやすく伝えていきたい。	B	紙面上では真意が伝わっていないと感じる事もあった。また、こちらの思いと、保護者の思いには誤差があることも感じたので、重要な事は直接顔を合わせて伝える事を今後も大切にしていきたい。
		2,満3歳児		まどやブログでは、全体に向けての情報発信だったが、クラスだよりでは、それぞれのクラスの子どもの遊び、熱中していること、保育者から見た子ども同士の関わり合いや成長の姿を伝えることが出来、良かった。特に、すずめ組は、2歳児特有の姿と、その姿に対しての園としての捉え方や保育者達の考えを載せる事で、保護者の子育てへの思いを分かち合う事にもつながったように思う。		毎日のブログに加え、月毎のまど、夏休み中のぺんぎんだより等で子ども達の楽しんでいる姿や園の思い等を発信することが出来た。また、春から育ててきた稲の栽培や収穫、農場での体験等、まど特別号で発信することが出来、継続的な活動の発展や広がりを紹介する良い機会となった。		年間通して、様々な子どもたちの活動の様子や、その姿を保育者はどのように捉えているのか、子どもたちの大きな成長について、様々な方法で保護者に伝える事が出来たと感じている。今後も、これまでにやり方に捉われることなく、様々な方法で、情報発信していきたい。
		3～5歳児						
保護者からの意見・感想（連絡帳にて）								
・ コロナの影響で懇談会が出来ず残念でありませんが、こうして形を変えて、クラスのお便りでお伝えしてしてくれる事、しみじみ嬉しく思います。								
・ お迎えの時にデジタルサイネージで水遊びしている写真を見ました。水遊びや泥んこ遊びを沢山出来た日には満足気な表情でいつも帰ってきます。想像以上に豪快に遊んでいる様子がわかり、納得しました。								
・ いつも園であったことはあまり話してくれないので、連絡帳で様子を教えて頂き成長を感じる事が出来ました。								
・ 子どもの発表がYoutube配信になるのは良いのですが、子どもの顔がちいさくて顔の表情がわからず、楽しみにしていた父・母・主人をがっかりさせてしまいました。ちゃんと映っているものが見たかった。								

評価項目		クラス	1学期の評価		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
③共に学び合う保育者集団								
1	他の職員とコミュニケーションを積極的に取り、人柄や考え方等互いに理解し合い、信頼感を深めるよう心掛けた。	0,1歳児	B	コロナ禍で集まる機会が少ないので幼児グループの先生とのコミュニケーションをとる機会が少なくなった。	B	1学期よりも気付いた事を積極的に発信するよう心掛けた。	B	クラス内の保育者同士での連携やコミュニケーションはこまめに行い、意思疎通を図ることが出来たが、クラス外の職員とのコミュニケーションは、機会が少なかった。
		2,満3歳児		すずめチームのメンバーは、とても良い雰囲気、情報交換を行い、連携しながら共に保育を行っていた。		1学期同様、連携しながら、良い雰囲気、情報交換をしながら保育に当たることが出来た。		良い雰囲気、職員同士コミュニケーションを取り、情報交換をしながら、互いに信頼関係を深めていくことが出来た。 特に、園内研修では、3～4人のグループを作り、1学期から1年間自分たちで学びたいテーマに沿って学ぶミニ研修の機会を作ったことで、意見交換をしながら共に考え合うという時間を重ね、良い刺激の場となった事を感じている。
		3～5歳児		各クラス3人の担任がいる為、様々な工夫をしながら、意思疎通に努め、連携していった。 グループ内だけでなく、様々な職員ともコミュニケーションもとりながら、関係を深めていきたい。		クラスに捉われずに、それぞれの保育者が、情報交換をしながら連携して保育を行う事が出来た。 時に相談し合う事に時間をかけすぎて結論が遅くなることもあるので、効率も視野に入れながらスムーズな連携を目指していきたい。		
2	「全職員で全園児を見る」という方針の下、積極的な発信や意見交換など、職員間で連携しながら、情報共有に努めた。	0,1歳児	B	個々のグループでは出来ていると思う。幼児の活動がなかなか見えないことが多かったが、ブログやまどをきっかけに知ることがあった。 幼児・すずめグループとたまごグループの情報共有や連携をお互いが意識して取っていききたい。	A	コロナ禍でも出来る事を探し、異年齢交流、保育参加日の発表見学、讃美歌を歌ってもらう等の機会を通して幼児クラスの子どもたちを知る機会になった。保育者達のエピソード記録を読むことで今まで知らなかった子ども理解に繋がった。	A	特に1歳児は、スムーズな進級の為に、幼児の部屋がある2階で過ごすことが増えた事で、幼児の保育者達が、1歳児の子どもたちと関わり、担当の保育者とも連携しながら皆で子どもを見る事が出来たように感じる。
		2,満3歳児		チームのメンバーとは、連携がうまくいっていたが、他のクラスの先生とは遊びの共有や情報共有などの面で課題を感じた。また、楽しんでいる遊びを引き続きペンぎんクラブでも楽しめるようにするには、保育者間でもっと情報共有し、どの保育者でも対応していける様にする必要がある。		1学期で課題となっていた遊びの共有や連絡事項の共有については、ミーティングでの伝達に加え、園日誌、掲示板やLINE等、都度適当な手段で周知し、皆も注意して情報収集するように心がけていた。 また、会議の参加については、すずめ、幼児のグループのそれぞれの会議の場に共通で参加する者がいる事で、情報共有を図った。ペンぎんクラブ会議も行い、今後の方針を考える事が出来た。 連絡ミスや行き違い等を少しでも減らし、協力し合いながら今後も情報共有に努めていきたい。		特に、幼児、満3歳児担当の保育者達は、連携して保育を行っている為、情報共有や、伝達を心掛け、直接伝えられないときには、LINE等も活用しながら周知徹底を心掛けた。 また、毎週行う会議でも、疑問に思っていることや、課題点を見つけ話し合う事を大切にして過ごすことが出来た。
		3～5歳児		それぞれの保育者が、特に意識して過ごすこと、また、幼児とすずめグループの情報共有が円滑にいくように、グループ会議に1名ずつ参加したり、ペンぎんクラブの担当者会議を設けるなどして、意識共有と情報共有を図る。				

評価項目		クラス	1学期の評価		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
3	分掌に当たっている仕事を常に意識しながら過ごし、管理・実行・周りへの発信等、責任を持って励んだ。	0,1歳児	C	分掌の仕事が何なのかを意識している人といない人の差が大きいように思う。日々の仕事に追われわかっていても後回しにしていく事が多かったのではないかと。 各自の意識を高め、気付いた事など積極的に意見交換していくようにしたい。	B	土曜日出勤時にたまごの保育者が発信者となり各保育室、トイレ、玄関等普段見落とされがちなどの清掃をすることが出来たと思う。 各自の意識は引き続き高めていきたい。	B	皆少しずつ意識が高まってきた。しかし、それぞれ気付くポイントや温度差がある為、積極的に発信し合う必要がある。
		2,満3歳児		人によって気が付くところが違うし、共有スペースの清掃や、連携して行くべきこと等も同じ先生ばかりがいつもやっているように感じる。 気づきは遠慮せずにすぐに発信するようにする。また、職員室の連絡ボードやチェック表等を有効活用し、重要な連絡事項は漏れないように責任をもって伝えるように心掛ける。また疑問は積極的に周りに問いかけるように意識する。		その都度、気付いた人が気づいた時に発信し、皆で考え合ったり、試してみたりしながら試行錯誤を続けてきた。 今後も、皆が意識して発信したり、責任をもって仕事に取り組んでいきたい。		意識的に分掌の仕事を行い、皆に呼びかける者と、忘れがちになり、発信をしないで終わってしまう者との差があることを感じた。 来年度は、定期的に職員会議の場で振り返るようにし、皆で意識して、園環境を整えていける様にしていきたい。
		3～5歳児						
4	学ぶ必要性を意識しつつ積極的に取り組んだ。（自主学習・園内研・外部研・他の職員の研修報告等）	0,1歳児	A	コロナ禍で外部研修はなかなか行けなかったが、その分オンライン研修や園内研修など積極的に参加できた。オンラインではその場で意見交換をすることが出来て良かった。オンラインなので、全国の良い先生の話や、普段聞けない講義等をもっと聞く機会が増えたら嬉しい	A	各自、積極的に研修に参加し、学んだことを共有することができた。	A	外部研修の機会は少なかったが、研修報告書を回覧したり、保育者同士の学び合い「ミニ研」を通して、互いに学び合い、深める事が出来た。
		2,満3歳児		外部研修もオンラインが増えたことにより、研修に参加しやすくなった。また、保育時間中でも、うまくシフト調整しながら参加したい研修に皆積極的に参加していた。また、園内研やミニ研等、共に学ぶ機会もあり、互いに深め合うことが出来た。		1学期同様、外部のオンライン研修が充実しており、それぞれにシフト調整しながら、積極的に参加していた。 研修報告も回覧板で回すことで、皆で学びを共有することが出来た。		外部研修はオンライン開催が多くあり、積極的に皆がリモートで参加することが出来、研修報告書で情報共有することが出来た。 また、園内研修も充実し、互いに課題を持って学びを深める事が出来た。
		3～5歳児		今後も、積極的に研修に参加し、個々のスキルアップにつなげていきたい。また、同じ研修を受講した者同士、互いに感想を述べあったり、他の職員の研修報告書を読むなどして、更に学びを深い物に出来るように心がけていきたい。				
保護者からの意見・感想（連絡帳にて）								
・園に電話をした時に他のクラスの先生が対応してくれました。わが子の名前を伝えるとすぐにわかってもらえ、園での様子も教えて頂けて、子どもの日常をお聞き出来る事は嬉しいものです。								

総合評価

『共に喜んで～すべての歩みの中』というテーマのもと、3つの課題目標を立て保育にあたってきた。この1年もまた、コロナウィルスの影響を大きく受けた1年であったが、昨年同様、この状況下の可能な範囲で、子どもたちの遊びがより充実できるよう、また保護者と子どもの成長を分かち合うことが出来るよう様々な工夫をしながら過ごしてきた。特に子どもたちの自主活動が充実するように、保育者間での情報共有を大切に、遊びの環境設定を工夫する中で、子ども達の育ち合う姿を多く感じる事ができた。年齢関係なく交わり子ども同士が支え合ったり協力し合ったりしながら遊びを深める姿から、好きな事を好きな人と思う存分楽しめる環境の大切さを改めて感じた1年だった。また、制限を設けながらだが、昨年よりも多く行事や懇談会を行う事ができ、皆で共に楽しみ、喜び合う時を持つことが出来た。そのような時間は、保護者にとって、子どもがどのようにして園で過ごしているのか、保育者がどんな思いで保育をしているのかを知る貴重な機会となる事を保護者の反応から、改めて強く感じた。

また、今年度は特に、保育者の質の向上を目指し、課題目標の一つに『共に学び合う保育者集団』を掲げ、園内研修を充実させた。与えられた学びだけではなく、自主的に課題を持って学ぶ機会を月に1回程度設け、継続的に行ったことで、職員間の意見交換が円滑になったり、身近な事への問題意識が高まってきたように感じる。

この自己評価も、今年度から学期毎の振り返りに加え、この3つの観点でまとめるようにした。振り返り確認し合うことによって、次の学期に向けての保育者達の課題意識につながったと感じている。このように、互いに影響を与え合い、共に考え合いながら、成長し続ける保育者集団を今後も目指していきたい。

- 2022年度 テーマ
- 『つながって～今、わたしを生きる～』
- ①つながりの中で、自分らしくいられる保育環境
- ②つながりの中で、喜び合える家庭との連携
- ③つながりの中で、高め合う保育者集団